

中央大学学員会 熊本支部 会報

第3号

支部長挨拶

丸本 文紀 (昭和53年卒)



支部長の丸本でございます。学員会の皆様におかれましては平素より中央大学熊本支部の活動にご支援ご協力いただき、誠にありがとうございます。無常の風、時を選ばずと申しますが、

まずは昨年8月にご逝去された安田征史先輩に心から哀悼の意を表したいと存じます。私は支部長として支部長経験者の安田先輩にいろいろと相談申し上げ助言を頂くことも多く、誠に残念でなりません。また学員会は同じ中央大学出身と言うことで絆が強く、幹事会後の懇親会の時は、多彩で深い人生経験から発せられる本音のお話をお聞きすることが一番の楽しみでありました。安田先輩はセルモグループという冠婚葬祭業界では日本でも有数の企業を一代で築かれました。その経験と実績に裏打ちされた経営談義は同じ経営者として、これほど勉強になったことはありません。今後は安田先輩の遺志をついで、熊本支部長として中央大学学員会の為、一経営者として世の為人の為に尽力して参りたいと存じます。さて、中央大学の2018年度の入

学試験受験者数が8万8182人と昨年比で約1万5000人(20%)増となり本学始まって以来の最多となったそうです。最近では都心回帰と言われ、郊外の多摩に立地する中央大学は全てにおいて不利であると予想されています。そこで昨年は他の競合大学と比較して受験者数が減ったので今後衰退するのではと心配されましたが、盛り返すことができて本当に良かったと思います。さすが我が校の伝統と実績は揺るがずと確信いたしました。

関連しまして、現在、熊本県ではブライト企業の指定を促進しています。それは人口減少時代において、地方創生を実現する為には東京の大学に進学した若者を少しでも地元企業に就職してもらい熊本に帰そうという試みです。熊本県支部会員企業にもすばらしい企業が沢山あります。中央大学出身が地元熊本に帰って熊本の復興の為に頑張ってくれば、これに優る喜びはありません。今後は父母連絡会のみならずとも連携をとりながらこのようなこともチャレンジして行きたいと存じます。

最後になりましたが、来年は熊本支部創設90周年を迎えます。いまのところ、特別な行事は予定しておりませんが、その節目をより有意義なものとするべく、熊本県支部の皆さんとの絆をさらに深めながら共に支部の発展を図るとともに皆様の御健勝を祈念してご挨拶と致します。

友好支部便り「福岡白門会」

福岡白門会
幹事長 伊藤 和孝

当支部は平成26年の規程全面的に見直しに際し、会員の要望が多かった「福岡白門会」の呼称を愛称として復活させました。あわせて廃止状態でしたホームページとフェイスブックを新たに作り直しを行いました。

福岡白門会は会員数610名。予算規模は会費65万円(一人5千円)に本部補助金を加えた収入で細々と運営しております。

他方行事は多く、ほぼ毎月何らかの行事を実施しております。具体的には、定例行事である7月の「総会」、1月の「新年会」に加え、10月「天空の白門会(タワー展望室での宴)」、11月「秋の謝肉祭(ビール工場)」と「出身力士激励有志の会」、春・秋の「友好支部との

白門会ゴルフコンペ」を実施しております。

ほかに特徴的な行事として、在学生と就職先との橋渡しとして、毎年夏休みの8月に「進路相談会」を父母連絡会の皆さまとともに開催しご好評をいただいております。熊本支部の会員の皆さまの求人活動等の一助になれば幸いです。ご期待しております。

こうした行事に加え、キメ細かい会員同士の懇親を目指して、毎月第三木曜日に「三木会」と称して異業種情報交換会を開催しております。会員で自由に情報交換を行う催しで、参加者は少人数ながらも顔ぶれが毎回替わり安価な参加費と相まって福岡白門会を代表する行事の一つとなりました。

会員の個人情報保護は業者のコンピュータにデータ保管されており、担当一名以外には誰であっても接することは出来ません。また問合せ等は口頭のみで行い、個人情報的大量流出や悪用を防ぐように工夫してあります。また会員の安全保護の観点から、福岡県暴力団排除条例の遵守義務等により反社会的活動及び犯罪行為は厳しく禁止されております。

最後になりましたが、総会・新年会以外の全ての催しはどなたでもご自由にご参加いただけますので、ぜひ一度福岡白門会の行事にもお遊びにお越しいただきますようお願い申し上げます。



福岡白門会 進路相談会の様子

安田征史 学員会会長代理・副会長へ哀悼の言葉 「学員会の真の発展に心を砕かれた」

学員会会長 久野 修慈



久野 修慈
学員会会長

その姿が突然学員会に現れるように思えてなりません。

長い間の人生、学員会活動本当にご苦労様でした。

思えばあなたが学員会活動に参加されたのは、熊本支部の支部長としての2007年（平成19年）からで、その後、九州地区を代表し翌年6月から副会長を務められ、長きにわたり真正面から学員会の発展、母校の発展に心を砕かれてこられました。

遠方の九州から毎月役員会に出席され、その傍ら、多くの学員と交わり、学員会活動の強化発展、学員の心の結集に誠心誠意心を砕かれてこられた生前

のお姿に、心から感謝申し上げますとともに、その人間性豊かな生き方に感佩するものであります。

安田さんは1963年（昭和38年）に商学部を卒業され、郷里熊本に戻り家業（貸衣装業）を引き継がれ、その仕事に

精進される傍ら、新たな事業として冠婚葬祭互助会事業に進出されました。厳しい事業環境を乗り越えられ、現在の事業体制を確立し、国内有数の互助会事業として発展されたのであります。

その間の辛苦をお聞きしたことがありました。何度も訪れた倒産の危機を、その強い信念（率先垂範、ご縁に感謝、利の元は義）で乗り越えられたこと、人生の辛苦を超えられたことは、事業家の範とすべきものであります。そのことは、あなたの親友・王貞治氏があなたに捧げた弔辞の言葉が物語っております。

一方、本当に熱心に学員会活動をされました。欲得なく、ただただ自然に学員の絆の強化のため、我が身を捨てて奮闘いただきまして。そのお姿は、安田さんを応援しておられた九州、熊本の学員の方々一人ひとりの心に伝わっており、それだけにそのご逝去を悲しんでおられます。

学員会活動でも自分の人生観をもとに正しい意見を述べられ、学員会の真の発展に心を砕かれまし

た。それだけに、学員皆が残念で残念でなりません。

亡くなられる直前の大学への多額な寄付も、大学関係者が喜んでおりました。このように、大学へも長年にわたり多大な貢献をされました。

心温かき安田さん、本当にありがとうございました。心安らかに、天国で大好きなスキューバダイビングを楽しんでください。

そして母校の発展と白門会の錦を見守ってください。

突然のご逝去を心からお悔やみ申し上げます。お別れの言葉といたします。

本当にありがとうございました。安田さん。



このメッセージは『中央大学学員時報』（平成29年9月25日号）に掲載されたものを原文のまま転載させていただきます。

安田征史氏（元熊本支部支部長 学員会副会長）は平成29年8月13日、不慮の事故により急逝されました。謹んでお悔やみ申し上げます。



故 安田征史学員会副会長

かかれてこられた生前のお姿に、心から感謝申し上げますとともに、その人間性豊かな生き方に感佩するものであります。

安田さんは1963年（昭和38年）に商学部を卒業され、郷里熊本に戻り家業（貸衣装業）を引き継がれ、その仕事に

安田征史氏のご逝去を悼み、心から哀悼の意を表します。安田副会長の突然の訃報に接し、私どもは夢想だにしなかっただけに、今もってご逝去されたことが信じられません。安田さんは常日頃から飾り気のない姿でおられただけに、今でも

来年！中央大学90周年を振り返る

学員だより



岩田 英志 (昭和51年卒)

(株)岩田コーポレーション

平成30年4月24日に幹事会が開催され、今年の総会について協議がある中、来年、平成31年は支部設立90周年を迎える」と報告があり、ええ！もうそんな

ところを懐かしく顧みてみました。考えてみれば私も満の64歳、卒業して42年の歳月を過ぎていくわけです。思い起こすと私の関わりは、昭51年(1976年)卒業後、某会社に入社し、



昭和59年、右横から高木総長、学長、津村剣道部監督、安田先輩、他後輩達です。

宮崎2年、長崎2年と勤務し、昭和58年熊本に帰って起業いたしました。

大学の時は剣道部でしたので卒業して熊本の剣道部OB会参加や個人的に剣道部の先輩達から度々ご馳走になつたりしてはおりました。ある時、42年卒業の長迫吉郎先輩から(健康食品会社、九健の社長、鶴屋百貨店にも出店)紹介されましたのが宮嶋支部長でし

た。当時は専務取締役で弁護士の中山大吉支部長と代わられる前後ぐらいだったと記憶しております、その後すぐ社長になられました。当時の総会は、鶴屋の宴会場(畳の間)か昭54年卒の岡本さんが経営しておられた「おおよし」で30人前後のメンバーで行われて

いました。宮嶋支部長を筆頭に紫垣先輩(弁護士)や平野先輩(警察学校長)そして梨子木先輩が幹事長、副幹事長が鈴木先輩(故人)、長迫先輩(故人)、藤山先輩、鶴屋の中に事務局がありましたので代表で星野先輩(当時鶴屋百貨店勤務)、若手で私に、岡本さん(おおよし社長現幹事)、佐々さん(当時鶴屋百貨店・現幹事長)の顔ぶれでした。懐かしいものです。

宮嶋支部長は、平成4年1992年商工会議所の会頭に就任され、大変お忙しくなられるので同時に支部長交代があつたように記憶しています、宮嶋支部長は10年以上お勤めだった様です。次の支部長に尾池希雄先輩(九州総合サービス社長)が抜擢されました。経済人としてネットワークを広げて支部の事業に参加できる卒業生を増員しようとバイタリティーに動かれ、20

04年ライオンズのガバナーにも就任されました。ガバナー時代には熊本白門ライオンズを2005年7月設立され本場に熱意ある尾池先輩の肝いりの発会となりました。しかしそれから2007年8月ご無理が祟ったのか突然逝去され大変残念なことでした。気配りとやさしさのある魅力ある先輩でした。

それから支部長任期中ではございましたが、2007年8月20日逝去された後を受け継いで安田征史先輩(セルモ社長)が熊本県支部長、東京本部の副会長に就任されました。安田先輩については皆さんよくご存じだと思います。こよなく中央大学を愛された方で、学員会の久野会長を陰に陽に支えてこられた方でした。

思い起こすと、10年前ほどだったと思います。佐々さんとお招きを頂き、1億円以上する凄いクルーザーに乗せていただきました。当時からスキューバダイビングが大変お好きで潜って魚を射止め船上で料理して振舞っていたことができました。その時の笑顔(どや顔)が今でも忘れられません。突然の事ではございましたが、昨年8月13日クルービング中大好きなスキューバダイビングで、ご逝去されました。大変残念なことです。そのあとは、福永先輩が2年、丸本さんが4年目を引き継いで今日があります。このように昔を振り返りますと、先輩たちの情熱が記憶に思い起こされる次第です。来年の記念すべき90年に向け、先輩たちが情熱を振り注いでいた中央大学学員会熊本支部のバトンをしっかり受け継ぎ頑張っていきたいものです。

(有)西銀座会館
(有)オフィス・リジン
代表取締役
荒木 誠也
(昭和44年卒)

公認会計士・税理士
京都大学 経営管理大学院
特命教授
吉永 茂
(昭和42年卒)

熊本県文化協会会長
九州産業交通
ホールディングス(株)
顧問
吉丸 良治
(昭和41年卒)

岩本俊雄税理士事務所

所長
岩本 俊雄
(昭和40年卒)

ラグビーワールドカップ2019 熊本大会の成功をめざして！

学員だより



森本 茂樹
(昭和50年卒)
(株)日本ビル管理
(株)熊本環境リサーチ

ラグビーワールドカップ日本2019まであと1年足らずとなりました。熊本ではフランス・ウェールズ・トンガ・ウルグアイの4チーム2試合が開催されます。

ワールドカップは4年に1度の開催ですが、アジアそして日本での開催は我々にとって一生に一度の催しだと思います。ぜひ迫力ある世界トップのプレイヤードスピリットとは

①ノーサイド精神 戦い終わればお互いをたたえ、ともに友情を高めあう。
②One for All! All for One!! 仲間を信じ、自主的に仲間とともに戦う!!

まさに企業経営そのものです。ラグビーワールドカップ2019熊本大会での熊本市への経済効果は80億円と見積もられており、九州ではほかに福岡・大分でも開催され、九州全体への効果は計り知れません。

一生に一度の開催です、成功をめざし皆さんとともに、スクラム組んで頑張っていきたいと思えます。よろしくお祈り致します。



ラグビーシニア国際試合
第1試合 相手はオーストラリア
圧倒負け！



第2試合 相手はニュージーランド
ハカに感激です。勝利しました！

まずは自己紹介。

昭和50年理工学部卒。一浪一留年と、人より2年ほど長い学びを経て、東京に本社を構える、総合水処理プラントメーカーに就職し大阪・東京・名古屋と転勤し、昭和62年熊本で父が経営する、(株)日本ビル管理に入社しました。

弊社の経営理念「建物を美き・水を清き・心を磨く」のもと、九州管内で建築物清掃業と半導体製造企業を顧客とした、超純水プラント運転保全業務の2本柱を核とした経営を展開しております。

昨年4月に大分事業所を開設し、本年4月から北九州に営業所を構え、北部九州および山口を視野に入れた事業展開を進めております。

また昨年2月に、水質分析・大気分析を行う(株)熊本環境リサーチを立ち上げ、環境事業の強化をはかっております。

社長歴26年、ラグビー歴40数年。現在も67歳現役プレイヤーとして、また熊本県ラグビー協会理事として全力で走り回っております。オーバードットアップへ進め!!

学員だより

守屋尚さんのこと

熊本白門ライオンズクラブ
会長 井村 秀夫(昭和49年卒)

熊本白門ライオンズクラブは、会員が中央大学出身者です。東京に次いで平成17年に元学員会熊本支部長故尾池希雄氏の呼びかけにより30名で発足。今でも当時の会員が10名残っています。現在は若い会員が増え活発な交流が行われています。

熊本地震のあと当クラブでも悲しい出来事が続きました。安田征史氏と守屋尚氏のご逝去です。第12代会長守屋尚氏は平成22年に入会。東京出身で縁有って奥様の古里熊本へ転居されました。温厚で真面目な性格で信頼を得、生業の社会保険労務士の仕事はもちろん、各種の事務局を任せられ、熊本に根を張って来られました。そんな矢先のご不幸でした。私もライオンズの会合でも早くご一緒しました。会場には誰よりも早く到着、周到な準備をされていました。全てを安心して任せられる方でした。あのはにかんだ笑顔が今でも忘れられません。想い出は尽きませんが改めてご冥福をお祈り申し上げます。



故 守屋尚氏

荒木公認会計士事務所

公認会計士・税理士

荒木 幸介

(昭和53年卒)

合資会社 橋本商店

代表社員

橋本 和久

(昭和53年卒)

株式会社 日本ビル管理

代表取締役

森本 茂樹

(昭和50年卒)

税理士法人
未来税務会計事務所

代表社員

西田 尚史

(昭和47年卒)

私の履歴書



坂本 哲志
(昭和50年卒)
衆議院議員

わが大学の学生生活は1000点満点でした。「出会った恩師・友人」「サークル活動の仲間と内容」「ゼミでの出会い」。一つ一つが卒業後40年以上経った今も息づいています。

入学時から新聞記者志望でした。マスコミに入るためのサークルを探しました。「グループH」(通称GH)というのが見つかりました。昭和30年代からの中大伝統の公認サークルで、新聞、放送、出版、広告、作家などに名だたる先輩を輩出していました。3年時からのサークルで入部試験がありました。試験に合格するために、1、2年時に「マスコミゼミナール」(通称マゼミ)という予備校的サークルに入部することが有利とされていました。2年時に「マゼミ」に入り、作文などの指導を卒業生の記者から受け、なんとか「GH」に合格しました。

「GH」の活動は「自ら行動を起こして、自らの体験を通して、ものの方を覚える」という漠然としたものです。その感性が記者や広告マンや雑誌編集者に欠かせないものである、という何ともしつかみどころのないものでした。

大型客船を貸し切り、東京一円から



ヨーロッパ美術館巡り
(ドイツ・ハイデルベルグ)



アラスカアドベンチャーツアー
キャンピングカーの仲間と
(白いシャツが私)



グアム洋上セミナー
(横浜港)



中央大学卒業パーティー
白門前でGHのメンバーと
(中央GHの指導先生、左から2番目が私
左端は現女房=GHには入っていない)

学生を募りグアムまで往復1週間の「洋上ゼミナール」を計画すると400人の学生が集まりました。成功に気をよくして、その後、アラスカのマッキンレー公園をキャンピングカーで回る「アラスカアドベンチャーツアー」を計画。6人乗り12台のキャンピングカーは直ぐ定数に達し、左右周りの6台ずつに分けて1週間の「アドベンチャー」はまさにハプニングの連続でした。4年時は女性を集めるために、「ヨーロッパの美術館めぐり」と銘打って伊、仏、独、蘭そしてドーバー海峡を渡り英へのバスツアー。いずれも海外旅行の走り、大成功でしたが、借金は残り、就職して2年間返済に追われました。

「一緒に計画を練り」「行動し」「行き詰まって困り果て」「新たな道を探し」「何とか切り抜ける」という体験は、やはり何物にも代えがたいものでした。「GH」の目指すところが、何回かの行動のうちに少し分かって来たころ、卒業となりました。

熊日受験時の作文の出題テーマは「マイカー」。旅客船、キャンピングカー、バスをマイカーに見立てて体験談を書く合格の通知が来ました。

「ものの見方をお互いに訓練していった中大時のメンバー」は今、私の東京後援会「そるばってんの会」の主力メンバーの一翼を担ってくれています。

新産住拓株式会社

代表取締役社長

小山 英文

(平成2年卒)

アステア税理士法人

代表社員税理士

千田 基史

(昭和63年卒)

九州電子株式会社

代表取締役社長

北澤 永通

(昭和58年卒)

グランツ株式会社

印刷・デザイン

代表取締役

吉田 秋正

(昭和56年卒)

甦れ、中大スピリット!!

大和田 智子
(昭和34年卒)

私は大学卒業以来、保健体育の教師一筋に人生を歩んできましたが、私とスポーツの関りは昭和25年、愛知県豊川市から白川中学校に転校したことを契機に始まりました。それまではスポーツに無縁の私でしたが、転校して間もなくクラス対抗陸上競技会の選手に選ばれ、参加すると、私自身が驚くほどの成績をあげることが出来ました。これを機会に陸上部に入ることとなり、アスリートとしての人生が始まりました。

高校は女子の陸上部があった第一高校に進学しました。高校では、熊本県の代表としてインターハイや国体にしばしば出場しましたが、当時は飛行機で移動することはなく、北海道で開催された国体には汽車で丸二日かけて参加したことが懐かしく思い出されます。なお、遠征などで授業に出られない場合は必ず誰かがノートをとってくれていました。そして、高三の時、全国陸上競技大会百メートル走において準優勝の成績を残すことが出来、試合後全国のいくつもの大学からスカウトが来ました。私は様々な条件的なことを考えるでもなく、白地に「C」のマークがとても気に入って、中央大学を選び、陸上競技部の門を叩きました。

当時の中央大学は練馬グラウンドに陸上部専用の400mトラックがあり、サッカー、ラグビー、馬術部が練習をしていました。また、石神井にハンドボール合宿所、吉祥寺に水泳プールがあり、剣道、柔道、空手部は駿河台の本館地下室で練習をしていました。そこは何とも男臭い独特の空間でした。

入部した陸上競技部は、男子生徒は一学年100名程度いましたが、女子は3、

4人で、西武池袋線の中村橋の一軒家の女子寮で、総勢13名ほどで生活していました。ちなみに、当時学食のうどんが10円で、寮の食費は、朝食が10円、昼の弁当が10円、夕食が30円でした。しかも米は持ち寄りで、食材の買い出しは当番制だったため、少ない予算の中で少しでも安い物、量の多い物を探し求めて買い出しをしていました。また、当時はガスもなく、煮炊き用には丸太が運ばれ、それを女の細腕で鋸を引き、薪割をして使っていました。

夏季合宿は通常松本で行っていましたが、熊本で開催することもあり、その際は先輩が私の実家に7、8人も泊まることもありました。こうした寮生活を通じて、苦楽を共にした仲間は家族以上に結束力が強く、卒業後私のかげがえのない宝となっています。

さて、私は文学部の国文科出身ですが、中高共に、国語と保健体育の教師の免状を持っていきます。中央大学には体育学部はないのに、なぜ体育の先生になれたのかよく尋ねられますが、運動部に所属し、保健体育の教職課程を履修すれば免状がもらえる制度が昭和33年に始まりました。その制度は10年限りでなくなってしまうましたが、私はその制度を活用した一期生です。国語と、保健体育、どちらにするか悩むこともなく、34年卒業と同時に熊本市の中学校の保健体育の教師となりました。

私が過ごした昭和30年代の中央大学の体育会系のレベルは非常に高く、駅伝をはじめ、野球、サッカー、バレーボール、水泳、剣道など、多くの国体選手、オリンピック選出を輩出していました。

現在の母校の成績を見ると誠に残念で忸怩たるものがあります。

大学スポーツは一般的にスポーツ施設の充実を入れ、優れた選手の獲得に躍起になっているようです。恵まれない環境の中でも数々の華々しい実績をあげていた当時を振り返ると、設備の充実も大事ではあるものの、必要条件ではないように思えてなりません。当時のバレーボール部は専用の練習場もなく、公営の体育館を借りながら全国優勝をしていました。一概に昔と今を比べることはできませんが、現在の母校の成績をみていると、何かが欠けているような気がしてきます。

例え恵まれない環境であっても（今現在には恵まれない環境自体がないでしょうが）、それに負けることなく、皆で知恵を出し合い、協力し、苦難を乗り越えていく姿勢、いわば中大スピリットが求められているのではないのでしょうか。わが母校の在校生諸君の奮起を願うばかりです。



昭和31年、1年生時、陸上競技部の粕崎での合宿。同級生の仲間達と。(前列左から2人目が筆者)

熊本銀行
白門会一同

肥後銀行
白門会一同
会長 竊田 誠
(昭和63年卒)

アリオン法律事務所
弁護士 宮崎 耕平
(平成13年卒)

株式会社 上田商会
代表取締役 上田 修司
(平成5年卒)

コラム
読書と私

中田 義雄（昭和46年卒）

私の寝室のベッドの枕元には、いつも2冊の本が置いてある。単行本と文庫本である。毎夜、寝る前に本を読むようにしている。私にとって本は睡眠導入剤と言っ

てよい。元々子どものころから、本は好きだった。ただ、高校のころまで、本と接する機会に恵まれなかった。本を好きになる決定的なものに出会ったのは学生時代である。中央大学の校舎があった駿河台から小川町を通り神保町へ行くと古本屋街があった。その本屋さんの本の数や種類の多さ、値段の面白さ、店の雰囲気、地方から上京した私は一種のカルチャーショックを受けた。

大学が長く閉鎖され、アルバイトの傍らよく神保町の古本屋に通ったものだ。そこから、私と本の長い付き合いが始まった。

趣味もレコード鑑賞、囲碁、俳句、ウォーキング、ギャンブルと下手な横好きでいろいろあるが年齢、時代、仕事など変わっても自分の趣味と自信を持って言えるのは読書だろう。

系統だてて本を読む方ではなく、計画を立てずむやみに読む濫読の類である。

歴史小説、推理小説、恋愛もの、経済書、社会学、哲学書何でも来いである。

ゲーテ、ニーチェ、ツルゲーネフ、漱石、山本周五郎、池波正太郎、司馬遼、松本清張、柳田邦男、宮部みゆき、東野圭吾など好きな作家である。

読書には、自分を高めるものがあり、未知との遭遇があり、心を揺さぶられるものがある。

本屋に行って本を選び、読み、そして面白い、感動的な本に出会うほど嬉しいことはない。

熊本地震で事務所などが大きく壊れ、本を置くところがなくなり、多くの本を断舍利したのが大変残念なことであった。

本は今の、またこれからの自分にとって、友であり、師匠であり、また家族であると思う。

これからできるだけ長く、本と接していれば幸いである。



熊本白門ライオンズクラブ 平成29年クリスマス家族会

本田税理士事務所



税理士

本田 勝範

(昭和52年卒)

〒861-2234

熊本県上益城郡益城町古閑551-5

TEL 096-289-0990

肥後もっこす本舗



代表取締役
岩田 英志
(昭和51年卒)

株式会社 岩田コーポレーション
〒861-5533 熊本市北区和泉町168-18 フードパル熊本内
TEL096-245-5211 FAX096-245-5218

熊本大同青果株式会社
株式会社大同リース



代表取締役社長
月田 潔 孝 (昭和59年卒)
宅地建物取引士



〒860-0058 熊本市西区田崎町484
TEL 096-323-2505
FAX 096-323-2503
E-mail: kyfender@kdaido.com

日替わりのお弁当を
会社やご自宅に...

一食からお届けします。

(株)ピライ 給食宅配サービス

おいしいな ぎゅうしょく
フリーダイヤル **0120-047-949**

S60年卒 平井 謙丞

